

広島県フロラ覚書 (2) コモチレンゲ

井上尚子¹⁾・松本広樹¹⁾・永井親雄¹⁾・石田源次郎¹⁾

Memoranda for the Flora of Hiroshima Prefecture (2) A new record of *Orostachys iwarenge* var. *boehmeri* (Makino) H. Ohba

Naoko Inoue¹⁾, Hiroki Matsumoto¹⁾, Chikao Nagai¹⁾ and Genjiro Ishida¹⁾

はじめに

生育地の状況

ツメレンゲ *Orostachys japonicus* (Maxim.) Berger は、タイプ標本が広島県福山市で採集された郷土ゆかりの植物である。県内の沿岸部や渓谷の崖などに点々と自生しており (榎本1979)、屋根や石垣など人家の周辺にも少なからず生育している (広島県植物誌 1997)。ツメレンゲの仲間は、日本では他に、アオノイワレンゲ *O. malacophyllus* (Pallas) Fisch., イワレンゲ *O. iwarenge* (Makino) Hara、コモチレンゲ *O. iwarenge* var. *boehmeri* (Makino) H. Ohba などが知られているが (大場 1982)、広島県内において標本に基づいた自生の記録があるのはツメレンゲのみである (広島県植物誌 1997)。

ところで、著者らは広島県では未記録のコモチレンゲが内陸部の民家の石垣に以前 (1991年頃) から生えているという情報を、広島市在住の三上幸三氏及び広島市農業林業センターの世羅徹哉氏から得ていた。しかし、「日本の野生植物Ⅱ」 (大場 1982) に記載されている分布地 (北海道) から離れていることから、これは植栽されたものであろうと考え、広島県自生植物としての調査を行わなかった。

このたび、別地点の民家の石垣にもコモチレンゲが生えているのを発見した。これをきっかけとして、広島県におけるコモチレンゲの生育状況を調査した。

その結果、これらが植栽されたものであったとしても、少なくとも数十年の間は、石垣上で自然に個体数を増やし生育しているということが観察されたので、広島県のフロラ資料として記録する。

コモチレンゲは、広島県山県郡豊平町と、山県郡戸河内町の民家の石垣に生育していた (図1)。それぞれの概況を表1に記す。

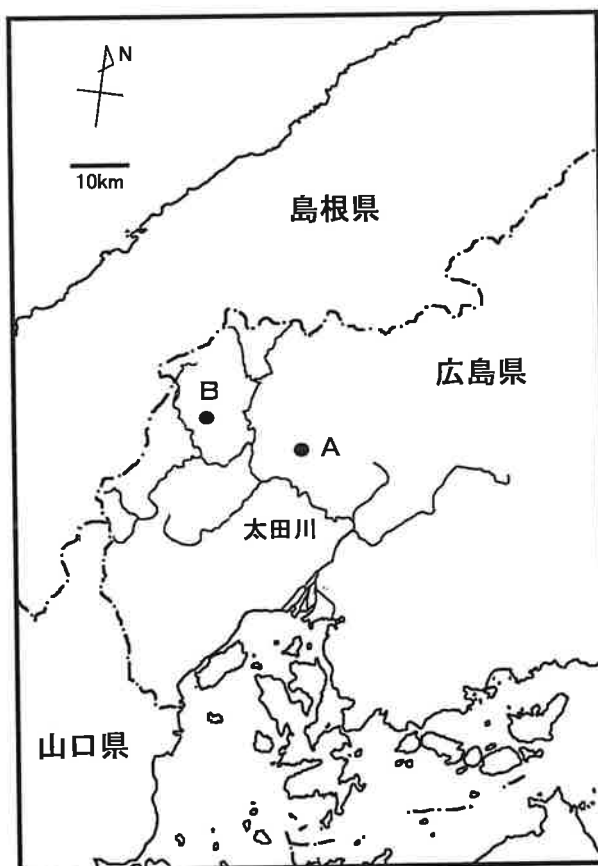


図1 調査地の位置

A: 広島県山県郡豊平町簾

B: 広島県山県郡戸河内町板ヶ谷

*Contribution from the Hiroshima Botanical Garden No. 76.

1) The Hiroshima Botanical Garden.

Bulletin of the Hiroshima Botanical Garden, No. 21:43-45, 2002.

広島県山県郡豊平町簾の藤井政行氏宅の石垣においては、100株を超えるコモチレンゲが生育していた。石垣の新しく補修された部分には生育していなかった。

調査の下見に行った1999年12月は、当家の藤井政行氏が亡くなられた直後であった。ご家族の方の記憶によれば、氏は生前、コモチレンゲの自生地とされる北海道を旅行したことは無かった。また、30数年前にはすでにコモチレンゲは生育していた。

もう一方の、広島県山県郡戸河内町川手の新田敏雄氏宅の石垣においては、ツメレンゲとコモチレンゲの両方が生育していた。藤井氏宅同様、個体数は多く、どちらも100株以上はあった。新田氏に直接お話を伺うことが出来たので、以下にその概要を記す。「十数年以上昔、国道191号線を新しくつけかえたおり、石垣を今の位置に移動した。するとツメレンゲとコモチレンゲの種子がどこからか飛んできて、自然に生えてきた。そしてどんどん増え、今のような状態になった」

「ツメレンゲやコモチレンゲはボロボロ落下しても、そのうち生えてくる。分布は広がり、上の段の石垣も、個体数が増えてきた」

広島県内生育についての考察

コモチレンゲは、広島県内で我々が調査した場所以外でも、比婆郡東城町の人里離れた一軒家の石垣に生育しているという。そのことは、中国新聞社が2001年に発行した「花の野歩帳」という本に、コモチレンゲの写真が掲載されたことで知ったが、我々はまだ未調査である。本の記載によると、ここでは何十年も変わらず多数が生育しているという。

コモチレンゲは、イワレンゲ（本州・関東以西、九州の海岸の岩上、屋根上に分布）の変種で、函館・日高・礼文島など北海道の海岸の岩上に分布するとされている（大場 1982）。今回、広島県内で確認されたコモチレンゲはいずれも石垣という人為的な環境でみられたこと、図鑑に記載された自生地から非常に離れたところにあることなどから、もともとは栽培用に持ちこまれたものではないかと考えられる。特に、母種であるイワレンゲは明治時代に園芸植物としてもはやされたことがあるので（大場 1982）、同様にコモチレンゲも普及したのかもしれない。しかし一方戸河内町の新田氏は「ツメレンゲもコモチレンゲも勝手に生えてきたもので、植栽したことはない」と述べている。石垣に生えるツ

メレンゲは周辺に本来の自生地が確認されている。したがって、コモチレンゲの本来の自生地が周辺にある可能性も無視できない。

広島県内に生育するコモチレンゲの由来はまだはっきりしないものの、少なくとも戸河内町では10年以上、豊平町では30年以上自生していることが確認された。

証拠標本 1:50,000 図幅「三段峡」。広島県山県郡戸河内町川手、海拔380m、石垣、November 19, 2001, Coll. T.Nitta, N.Inoue & H. Matsumoto. HBG12219, det. Tarow Seki, November, 2001.

謝 辞

庭先での調査を快諾してくださった新田敏雄氏、藤井ミツ枝氏、生育地の情報をご提供いただいた三上幸三氏、コモチレンゲの同定をお願いした関太郎広島大学名誉教授には厚く御礼申し上げます。

摘 要

コモチレンゲ *Orostachys iwarenge* var. *boehmeri* (Makino) H.Ohba (ベンケイソウ科) が広島県に自生する植物として初めて記録された。ただし、逸出したものか否かは不明である。

Summary

Orostachys iwarenge var. *boehmeri* (Makino) H. Ohba (Crassulaceae) was newly added to the flora of Hiroshima Prefecture.

引用文献

- 中国新聞社 2001. 花の野歩帳. 178pp., 中国新聞社, 広島市.
 榎本克彦 1979. 広島県内のツメレンゲ. 広島市植物公園栽培記録 1: 19-20.
 広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会(編) 1997. 広島県植物誌. 832pp., 中国新聞社, 広島市.
 大場秀章 1982. ベンケイソウ科 Crassulaceae. 日本の野生植物Ⅱ 139-152. 平凡社, 東京.

表1 コモチレンゲが生育する石垣の概況

調査日：2001年11月19日

民家の所在	広島県山県郡豊平町簾	広島県山県郡戸河内町川手	広島県山県郡戸河内町川手
民家の所有者	藤井政行	新田敏雄	新田敏雄
海拔高度	350m	380m	382m
石垣の方位	E20° S	S20° E	S40° E
石垣の高さ	2.4m	1.6~2.6m	2.5~3.0m
石垣の長さ	12~14m	50m	50m
石垣上部で確認された植物	コモチレンゲ、ハイネズ (植栽)、ハウチワサボテン (植栽)、サツキ (植栽)、ヒメハギ、コニシキソウ、カタバミ、スマレ	マツバギク (植栽)	サツキ (植栽)、シバ (植栽)
石垣中部で確認された植物	コモチレンゲ、サツキ、イヌシダ、ゼンマイ、トラノオシダ、ヒメウス	ツメレンゲ、コモチレンゲ、マツバギク、コニシキソウ、カタバミ、ジシバリ	ツメレンゲ、コモチレンゲ、ヒメウス、イタドリ、ツバキ、チャ、ナンテン、ヘクソカズラ、サツキ、ヨモギ、シバ



図版. A：広島県山県郡豊平町簾のコモチレンゲ *Orostachys iwarenge* var. *boehmeri* が生育する民家の石垣。

B：豊平町に生育するコモチレンゲの様子。C：広島県山県郡戸河内町川手のコモチレンゲが生育する民家の石垣。D：戸河内町に生育するコモチレンゲの様子。